

6-1 最近の紀伊半島・四国沖の地震活動

Recent Seismic Activity in the Region off Kii Pen, and off Shikoku District

大阪管区気象台

Osaka District Meteorological Observatory, JMA

第1図(a)から(c)は、気象庁が計算機で震源決定を行った1926年から現在に至るまでの期間別震源分布図である。マグニチュードの下限は5、深さは90kmまでで、それぞれの図は次のように区切っている。(a)は1926年から東南海地震直前まで、(b)は東南海地震の発生から1973年まで、(c)は1974年から1993年6月までである。表現を変えると(a)は東南海地震の前震、(b)は東南海地震および南海地震とその余震、(c)は、それら両地震の次回の活動への移行時期となる。

(d)は全期間の震源分布図である。(e)では(d)図内の矩形に囲った範囲の時空間分布を、(f)は、そのM-T図を表している。

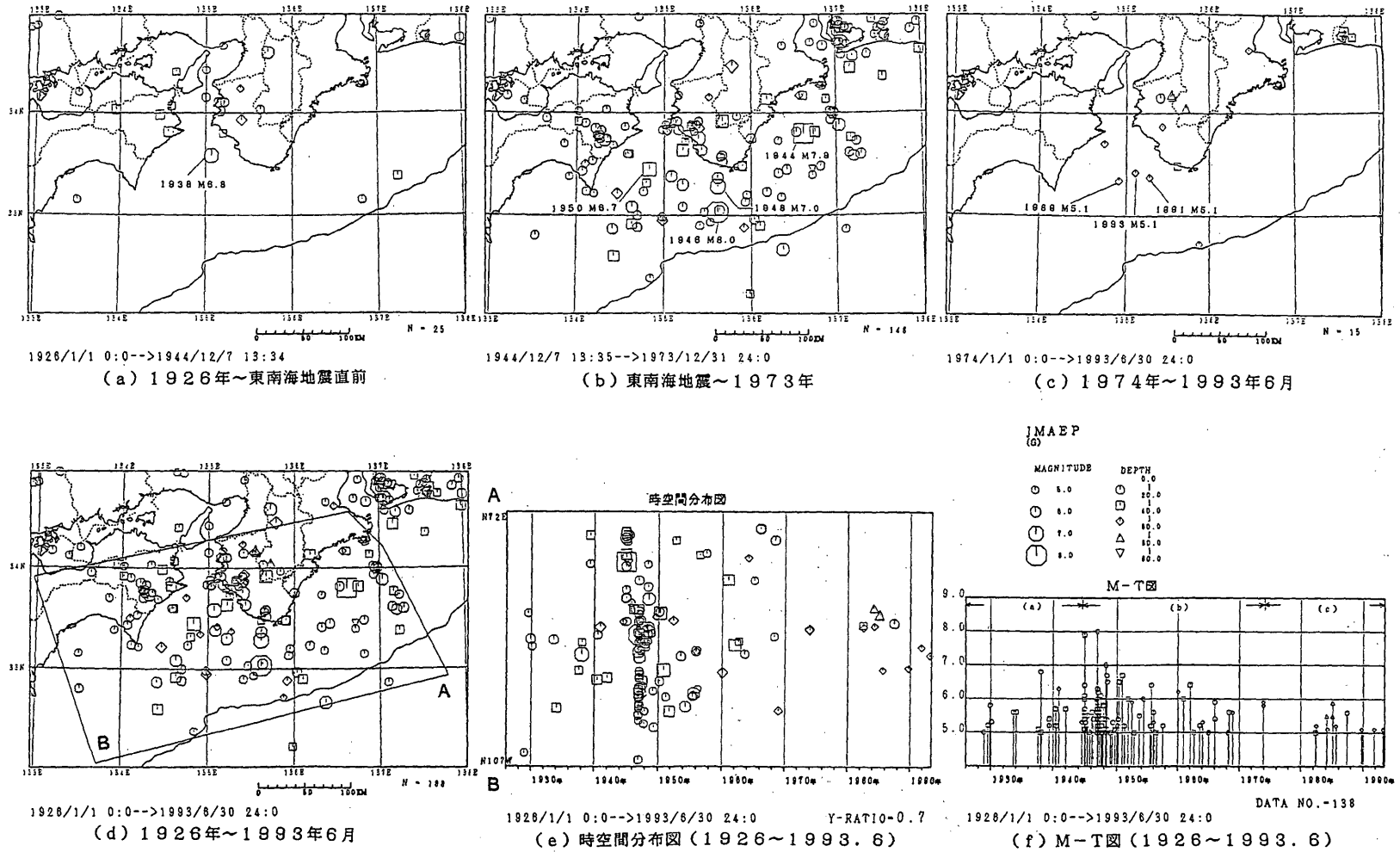
(a)から、東南海地震は目立った前震活動が無かったこと、(c)および(f)から、1970年代の静穏な時期が終わり、1982年以降南海地震の活動域で再び活動が見られる様になったこと、また(e)から、南海地震の活動域では1970年以降M5以上の地震は全く発生していないことが分かる。

第2図は、最近の活動状況を見るため、大阪管区気象台にL/A（地方中枢気象資料自動編集集中継装置）が設置された1984年以降の、大阪管区気象台で決定した震源分布図を示した。マグニチュードの下限は、ほぼ取り落としの無いと思われる3.5に設定した。(a)は震源分布図で、その実線で囲んだ範囲の断面図が(b)、(c)が時空間分布図、(d)がM-T図、(e)が回数積算図である。

震源分布図から、和歌山県中・北部、紀伊水道は定常的に地震活動が活発だが、紀伊半島東部から熊野灘にかけては活動度が低いことが分かる。また、第1図(d)ではほとんど地震が発生しなかった四国の中部から四国沖にかけても、地震活動が見られる。

第2図(e)等から、地震回数は1985年7月から翌年の半ばまで増加していたことが分かる。これは徳島県沖の紀伊水道でM5.2の地震を最大に群発したことや、1986年前半にかけて四国内陸の地震がやや増加した影響である。その後1987年まではむしろ減少傾向にあったが、その後は1991年まで定常的な活動が続いていたと考えられる。現在もその延長線上であり、今後の活動が注目される。

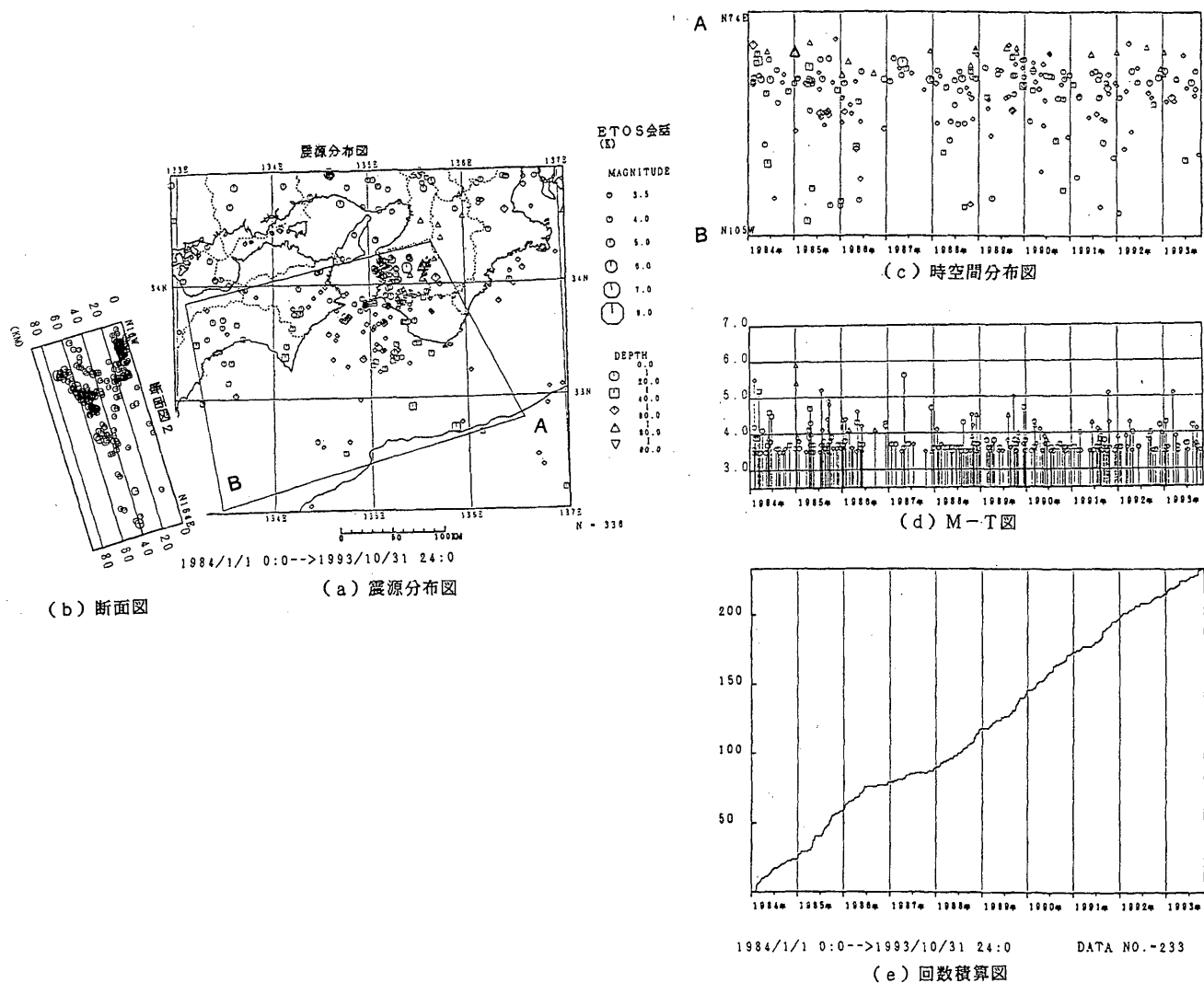
(1) 1926~1993年までの期間別地震活動 ($M \geq 5.0$, $H \leq 90$ km)



第1図 1926年~1993年までの期間別地震活動 ($M \geq 5.0$, $H \leq 90$ km) (a)1926年~東南海地震直前 (b)東南海地震~1973年 (c)1974年~1993年6月 (d)1926年~1993年6月 (e)時空間分布図 (1926~1993.6) (f)M-T図 (1926~1993.6)

Fig.1 Temporal variation of epicentral distribution of earthquakes. ($M \geq 5.0$, $H \leq 90$ km)
(a)1926-before Tonankai Earthquake. (b)Tonankai Earthquake-1973. (c)1974-June, 1993.
(d)1926-June, 1993. (e)Space-time plot (1926-June, 1993). (f)M-T diagram (1926-June, 1993).

(2) 最近の地震活動 (1984. 1. 1~1993. 10. 31、 $M \geq 3.5$ 、 $H \leq 90$ km: 震源は大阪管区気象台による)



第2図 最近の地震活動 (1984.1.1~1993.10.31, $M \geq 3.5$, $H \leq 90$ km: 震源は大阪管区気象台による)
 (a)震源分布図 (b)断面図 (c)時空間分布図 (d)M-T図 (e)回数積算図

Fig.2 Recent seismic activity of earthquakes ($M \geq 3.5$, $H \leq 90$ km: January 1, 1984–October 31, 1993).
 (a)Hypocentral distribution. (b)Cross section. (c)Space–time plot.
 (d)M–T diagram. (e)Cumulative number of earthquakes.